

支部長挨拶

日本気象学会北海道支部が創立30周年を迎える記念すべき年に、支部長の重任をお引き受けすることとなりました。もとより微力ではありますが、支部活動を活性化するために精一杯努力致す所存でございますので、会員の皆様方の一層の御協力、御支援をお願い致します。

本年4月24日に開催された第1回理事会においては、緊急の議題として欠員となった理事5名の補充と幹事、会計監査の指名が協議、決定されました。新任の理事、幹事は幸いにして学会活動の経験も豊富で、学会運営に意欲的な方々で補充されたことを報告致します。



本年度は、例年通りの支部総会、第1回研究発表会に続いて、創立30周年記念行事として研究功労者の表彰と30年の研究をふり返っての記念講演を実施しました。なお、支部だより33号を記念号として、一層内容を充実させて刊行する予定であります。今一つの本年度の支部の大事業は、10月に予定されている日本気象学会秋季大会を成功裡に無事終了させることであります。全国からの学会員をお迎えし、研究発表、シンポジウムを通じて、日本気象学会の発展のために当支部が幾らかでも貢献できればと願っております。

わが国の北端に位置して気象条件の厳しい北海道においては、住民の日常生活や農業を始めとする各種産業からの気象情報提供の要請が日増しに高まっております。支部会員の研究により、地域特有の気象現象の解明が一層進展することが期待されています。この研究成果を基礎として、始めて地域への情報サービスの改善も図られることとなりましょう。

近年、新しい観測技術や情報処理等の面で著しい進展がみられ、技術改新の時期にきています。新時代の気象学発展の担い手として、支部会員とりわけ若手会員が新しい感覚で、はつらつと研究に励まれることを期待しております。

最後に、支部創立30周年を迎えて益々の発展をめざしたい年に僅かながら支部会員数の減少がみられたことは残念です。有望な新会員の加入に皆様の御協力をお願いする次第であります。

日本気象学会北海道支部長 **秋山 勉**
(札幌管区気象台長)